2019　カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業

学校のカラーユニバーサルデザイン推進支援講座

写真記録――2会場の講座風景

2020/03/01　　NPO人にやさしい色づかいをすすめる会　作成

講座開始直後の様子。手前左のビブスは実際に学校で使用しているものをお借りした。

お借りしたビブス6色。 先生いわく「生徒が少ないから, たいてい赤と白です」。
バリアントールをかけて見ると, 蛍光の黄緑と黄色の違いはほとんどわからない。

簡単にCUDの概念を説明した後で，さっそく色紙を5種類に分類するワークを始めた。

黙々と50色の色紙を5つのグループに分けていく。

職員用図書

10分弱で全員が色分けのワークを終えた。バリアントールを外した後に驚きの声が上がる。青系にピンクが混じる，黄緑とオレンジと茶が同グループ，赤と黒が同じ・・・等，先生方に気づいたことを述べてもらう。

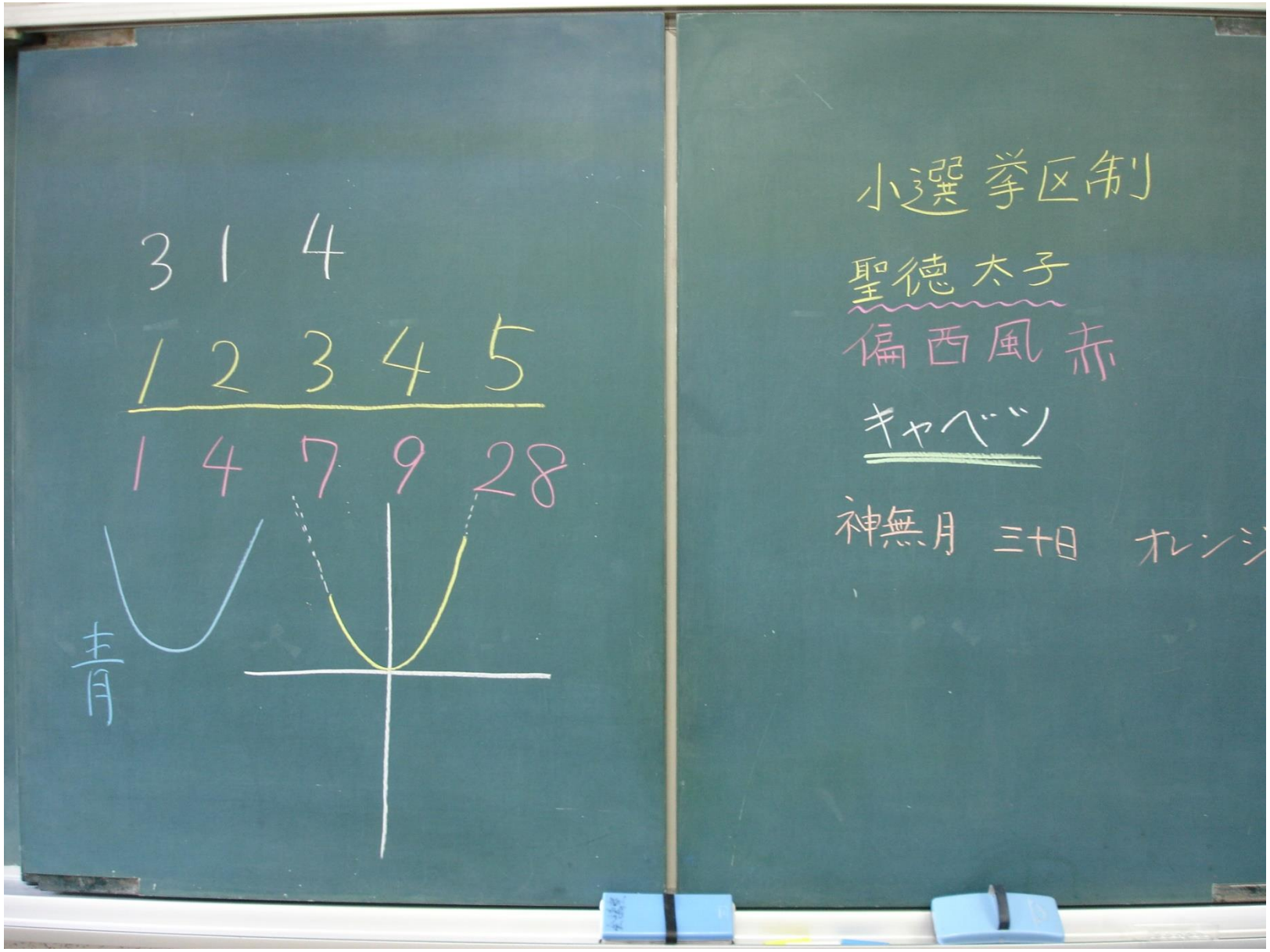
見分けにくい色の組み合わせのひとつ、黄緑とオレンジについて注意を促す富永さん。

たしかに黄緑と明るい茶系をまとめている。少し苦笑する先生も。

色紙を5種類に分類するワークの次はチョークの見え方を確認する。先生にいつも通りの板書をお願いする。
白と黄とピンクで文字が書かれた。

日本理化学
ダストレス蛍光チョーク 6本パック

この学校が日常使用するチョークは，一般に普及している白・黄・ピンク・青の4色（メーカー不明）と，
日本理化学工業の蛍光チョークセット。最後にオレンジ色で「神無月　三十日」と書く。

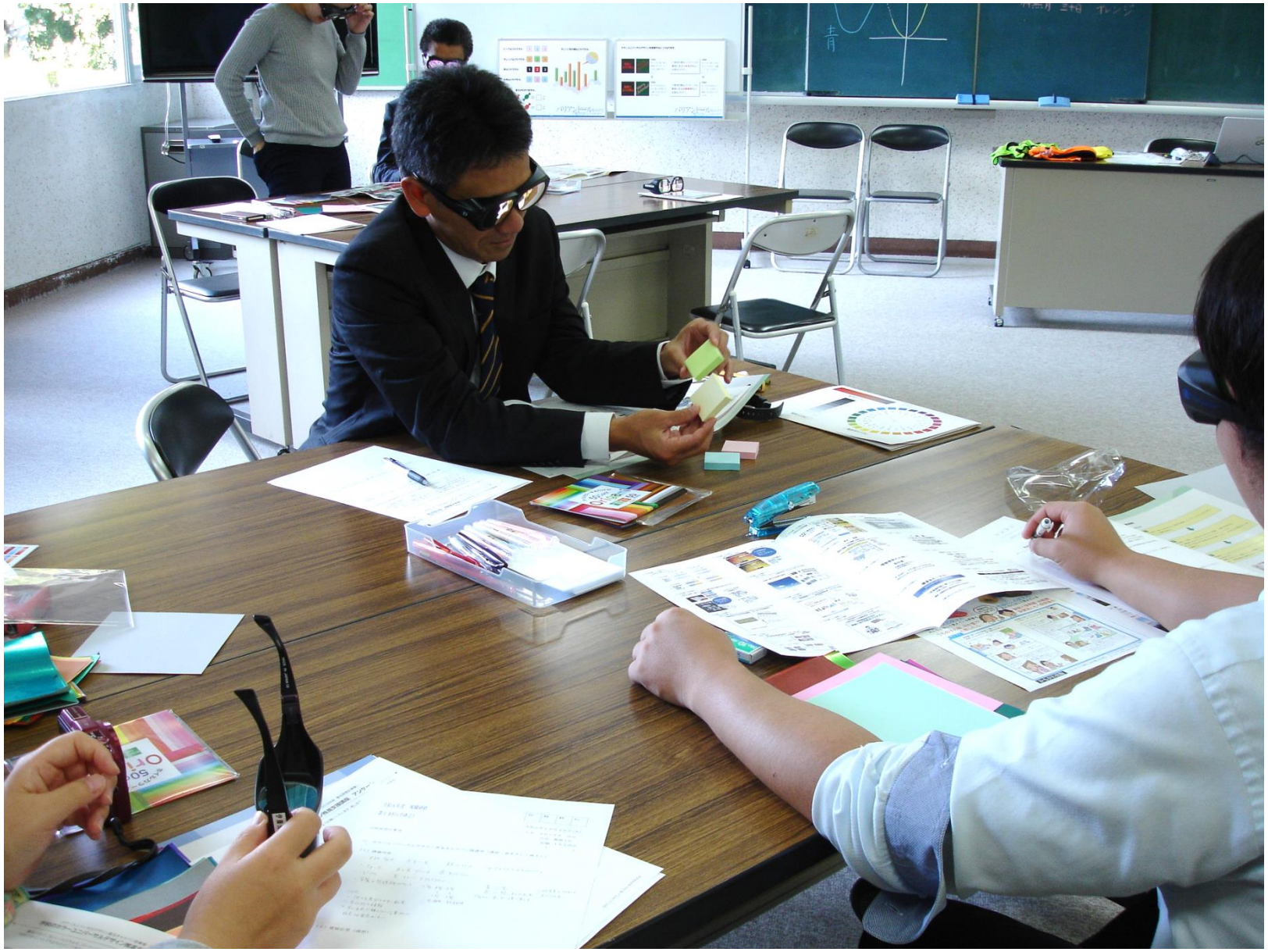


左は数学の先生による3色の数字と黄の放物線。点線は白で。青の放物線,「青」と「オレンジ」の文字は富永さん。

教室後方から見るとピンクがよく見えないと驚く先生たち。何色がいいだろう。

さらにチョークの色を後方から確認する。ちなみに今回はCUD対応チョークは使用していない。

靴下, ネクタイと缶コーヒーのコーナー。今回は色鉛筆も置いている。

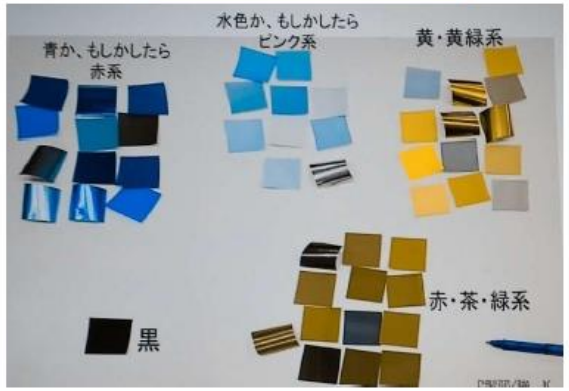


各グループに一部ずつ用意された資料のセットを見る。学校で使用している付箋の色もチェック。

色弱当事者による　よく似た色5分類

P型強度

シミュレーション



色弱当事者による　よく似た色5分類

D型強度

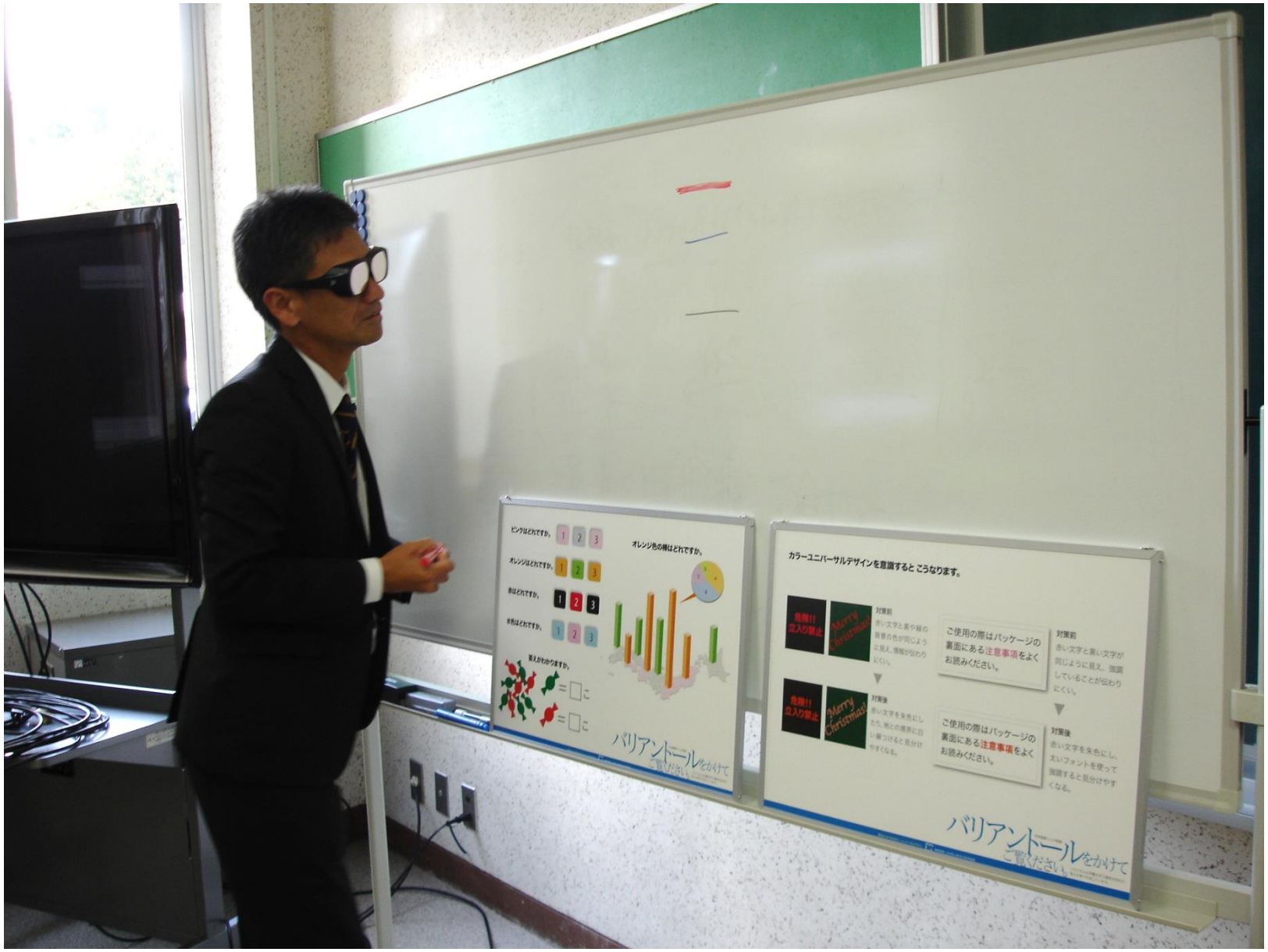
シミュレーション

ワークの後にふたたびレクチャーを行った。

色弱者による「似た色5分類」の説明は，先生たち自身が行ったワークの後だけに説得力をもつ。

色覚タイプとそれぞれの見え方についてもここで説明。第1回のキャラバン隊講義の反省が生きた。

バリアントールをかけて『石原式色覚検査表』を見る。「え～全然わからない。」



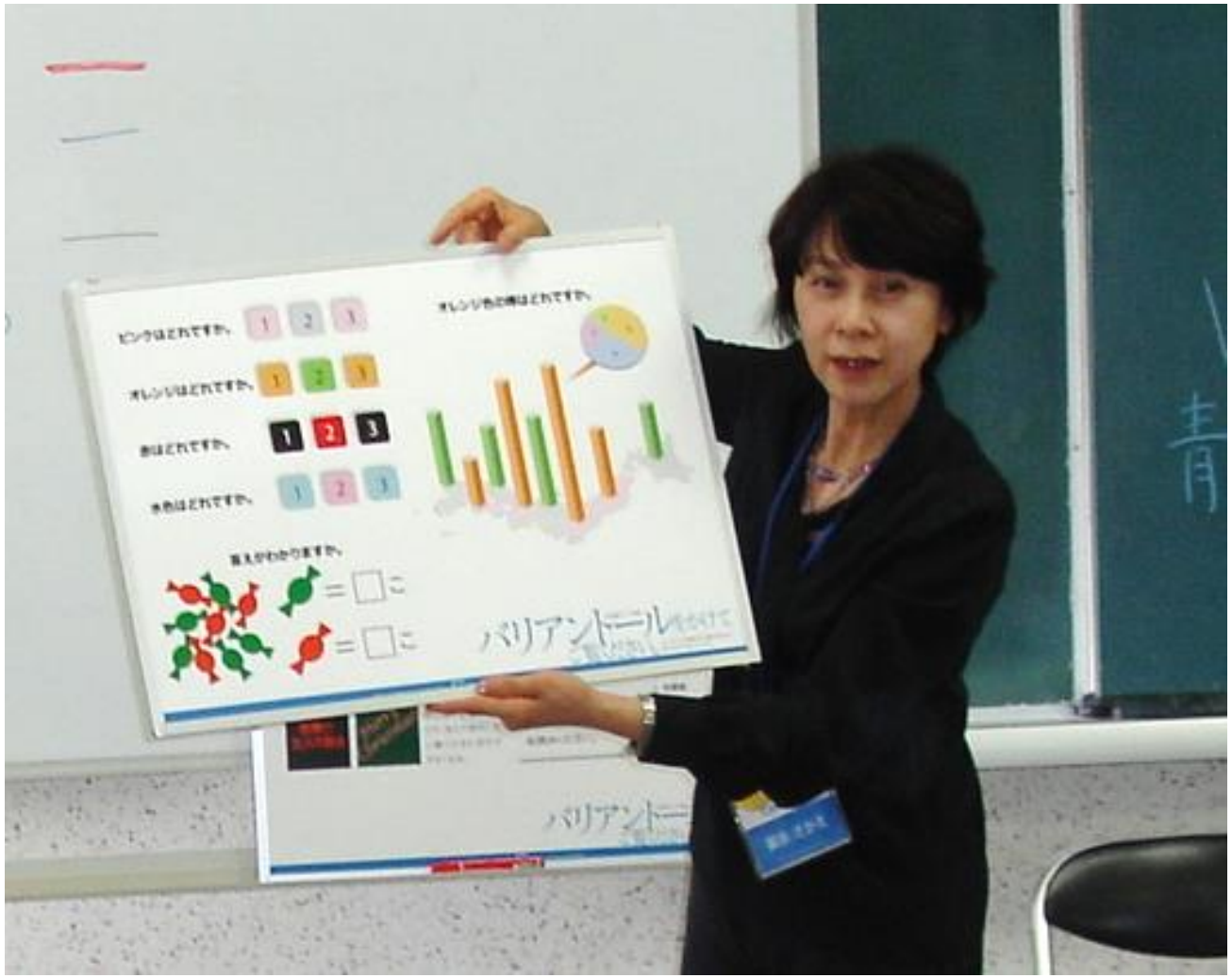
黒字のうえに赤ボールペンで丸つけやコメントを書くと目立たないことを知った後，ホワイトボードとペンの見え方も確認していただく。「赤は見えにくいね。」

黒, 赤, 青のペンで書かれた文字を見る。「青はよく見える。」

左下に見えるパンチ穴のあるシートに注目。

令和元年度　現職研修
第14回(全体会)
○カラーユニバーサルデザイン隊講座(講師:富永さん・林さん)
(1)講義内容

われわれのワークシートとアンケートに, さらに研修報告まで書かなければならない先生方, お疲れさまでした。



2時間の講座を終える。 教頭先生はじめ発言者が多く, 双方向で話が進んだ。色覚の多様性とCUDの重要性をしっかりと伝えられたと思う。

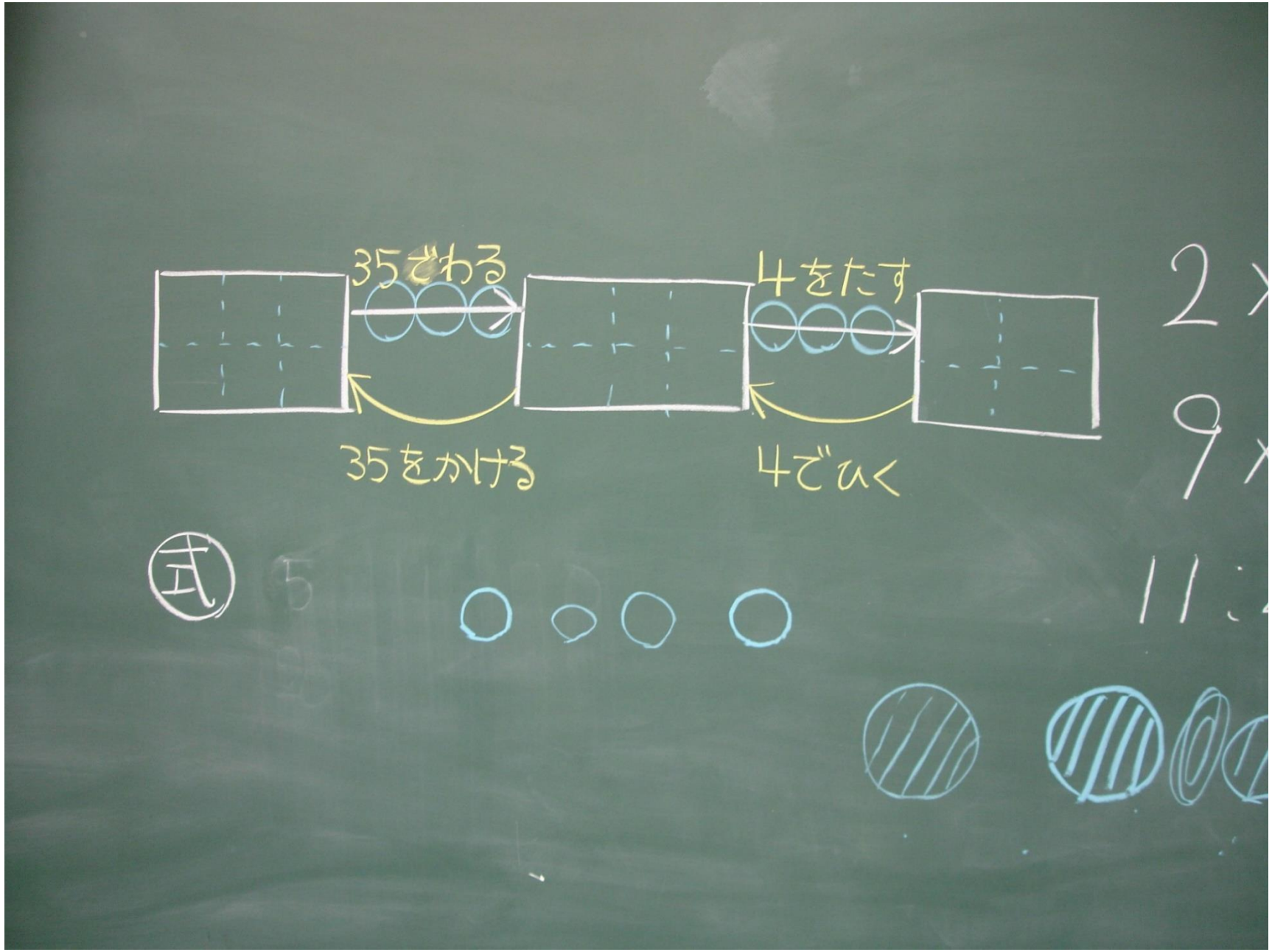
このスライド以降は、別の学校の講座風景。

色紙を5分類するワークの様子を省略し、板書の見え方を色弱模擬フィルタを装着して皆でチェックするワークをさらに見ていく。

この学校はCUD認証されたチョークは使用していない。

学校が常備しているチョークは白, 黄, 青, ピンクと緑の5色。

日常は白と黄を主に使用するとのこと。



D型強度のKさんによれば，白と黄の色差は明瞭，青は緑板の色に沈み，やや見えにくくなるものの，白との差異はわかる。

下の青の○と斜線付きの○は，筆圧について説明するために富永さんが書いたもの。

青の斜線付きの◯は，筆圧について説明するために富永さんが書いたもの。

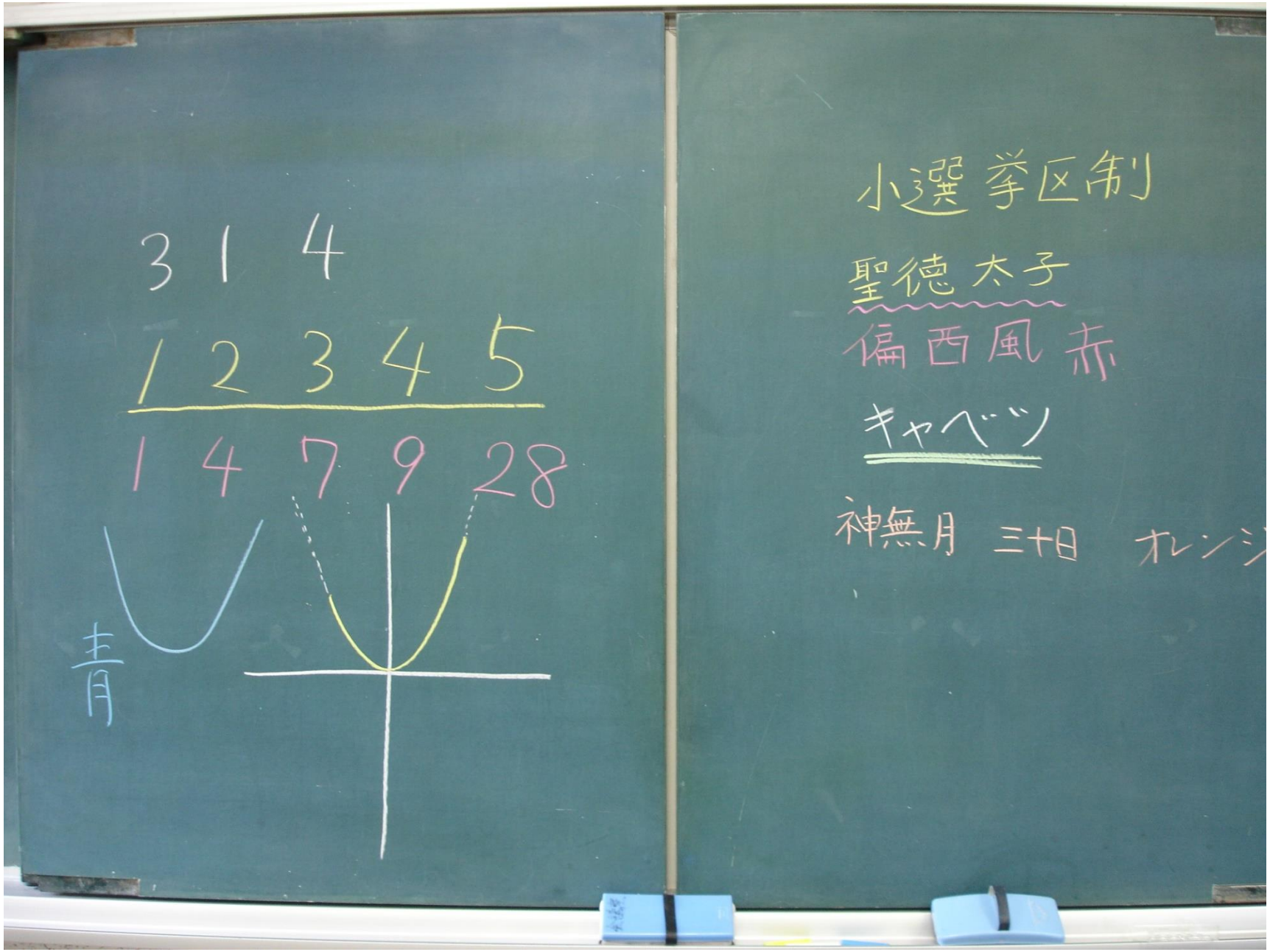
左から筆圧が弱，強，中で，中央の◯はかなり強くしっかりと書かれており線も太い。背景の暗い緑板色との対比で，明るくはっきりと見える。

先生方に，**普段の板書はどの程度の筆圧か問うたところ，中央と右のちょうど中間くらいとの答えがあった**（三重の楕円で示した部分）。中央の◯のように強い筆圧では疲れるため，このように書くことは無理だとの声もあった。

板書の筆圧や書き方について皆が共有する基準のようなものはないそうだが，3人の板書例が示す通り，適度な太さの，濃さが均一のしっかりした文字・図を心がけている様子が伝わってきた。

色弱当事者のKさんによれば，右の「ちょうじゅう」は何色かまったくわからない，「画」は「ぎが」（いずれも青）との差異がほとんどない，という。

当事者の声によって，「緑色で書いたところが○○だよ」といった色名での指示は避けねばならないことが，今回きわめて印象的に示された。



（参考） 先に紹介した板書例

左は数学の先生による3色の数字と黄の放物線。点線は白で。青の放物線,「青」と「オレンジ」の文字は富永さん。

この学校が使用するビブス。
白, 水色, 黄, オレンジ, ピンク, 赤の6色(右端に見える黄緑は当会のビブス)。

バリアントールで確認し, いずれの組み合わせも識別できないほどではないが, 白と水色, ピンクと水色はやや見えにくいかもとの声が上がった。

色弱当事者のKさんによる色紙の5分類。
手前から赤系統, 黄・茶系統, 無彩色, 奥左は青系統, 奥右は緑系統。

色紙分類ワークの後で, 当事者の分類として紹介する。

分類の特徴。黄・茶系統にメタリックの緑(やや黄みの)が1枚混じっている。極薄いピンクが無彩色グループに。また, やや黄みの薄いピンク(最前列の右から2番目)は赤系統に入っているが, Kさんにとっては違和感のある難しい色とのこと。

色紙分類のワークでは, 橙と黄緑, 青と紫の混同, 青みのピンクが青・紫系統にグルーピングされること等の発見がある。一方, D型強度のKさんは青系統にピンクを入れていない。先生方は色相ごとにほぼ混同なく分類された色紙を見て驚いていた。

今回は, ここでバリアントールのタイプについて説明があり, 先生方が色覚タイプを意識する(関心を向ける)きっかけとなり効果的であった。ワーク後に行う色覚タイプについての解説を熱心に聴く先生方がいつもより多かったことからもそのことが窺えた。

（参考） 色弱当事者P型強度のKTさんによる色紙の5分類。

下段左は青系統（もしかしたら赤・紫系を含む），下段右は無彩色，中段は赤・茶・緑系，上段左は水色系（もしかしたらピンク系を含む），上段右は黄・黄緑系。
「もしかしたら◯系を含む」とは，C型との見え方の違いをよく知っているKTさんならではの独特の表現である。

D型強度のKさんともかなり異なることがよくわかる。

展示コーナーを作ってあるが，今回は自由に見る時間は取れず，パネルも設置していない。

靴下，ネクタイ，本とペンは講義途中で使用した。